

和地ひとみレポート No.427

令和4年度の予算案を審査する予算特別委員会 新たな取組みの効果を、どれだけ反映させた予算か



■予算特別委員会

…3月9日と10日の2日間、来年度（令和4年度）の予算案を審査する予算特別委員会が開催されました。この予算特別委員会は、議員全員が委員となり、市長部局から提出された来年度の『一般会計予算（案）』と、『国民健康保険事業特別会計予算（案）』、『土地区画整理事業特別会計予算（案）』、『介護保険事業特別会計予算（案）』、『後期高齢者医療特別会計予算（案）』の4つの特別会計と、そして、公営企業会計を適用している『下水道事業会計予算（案）』の内容を、より丁寧に審査をするために特別に設けられている委員会です。

…通常、委員会では市長から予算概要の説明があり、その後、副市長や担当部長から来年度予算案の主なポイントについての説明を受けてから、歳入、歳出に対し委員は質疑していくのですが、今回開催された特別委員会は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、質疑の前に行われる説明については、事前に書面で配布し、時間を短縮する対応が取られました。

…この予算特別委員会では、一般会計については、歳入は一括、歳出は款（カン＝総務費、民生費等の分類を款という）ごとに、すなわち予算の款ごとに、質疑をして内容を確認するのですが、特別委員会ではそれぞれの委員が各款で2回までしか質疑が出来ないルールとなっています。よって、最初にした質疑に対する答弁内容が不足と考えたら、再度、その点を質疑できますが、2回目の答弁が不足と感じても、同じ委員は再質疑を行うことはできません。

…また、この特別委員会においても、各会計の審査終了後に、賛否は確認されますが、最終的な採決は、市議会定例会最終日（3月14日）の本会議で行われます。

■新たに様々なことがスタートする来年度

…前述の通り、予算案には教育・福祉や道路・公園の整備など、一般的な行政サービスを行うための予算が計上されている一般会計予算と、特定の目的のための会計で一般会計から切り離して、その収入・支出を経理する特別会計予算がありますが、予算特別委員会では、市の行政サービスの広範多岐に関する、かつ、一番予算額の大きな一般会計から審査します。その審査にあたっては、カテゴリー別の審査の前に、一般会計予算全般に関することを確認する総括質疑が設けられており、今回の特別委員会では、私を含めた3名の委員が総括質疑を行いました。（総括質疑も各委員が出来る回数は2回です）

…私は、来年度、東大和市が新たな取組みをスタートする初年度であることに重点を置いて以下の総括質疑を行いました。

【令和4年度を初年度とする主な新たな取組等】

- ◆まちづくりの指針となる総合計画「輝きプラン」の初年度。基本構想（構想期間：令和4年度から令和23年度）基本計画（計画期間：令和4年度から令和13年度）
- ◆大幅な組織改正による事業の効果と効率アップ
- ◆市長が予算編成方針で“デジタル化元年”とした
- ◆第三者の客観的視点を持った業務改革を予算に反映
- ◆第6次行政改革大綱をスタート

■デジタル化元年の効果は

…昨今、DX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉をよく見聞きしますが、東大和市が令和4年度で目指す“デジタル化”はDXの土台です。DXは直訳すると「デジタルによる変容」＝事務効率の向上などを目的としたデジタル化により、業務の「質的变化」までを実現することを意味しています。よって、“デジタル化”は、その先のDX、すなわち業務の「質的变化」までを見据えた効果のあるものでなければなりません。すなわち、デジタル化元年の予算は、デジタル化の効果を反映した予算であるべき。そこで、以下の点を質疑で確認しました。

- ◆デジタル化に関して市長は、施政方針で費用対効果を十分考慮することを示された。残念ながらKPI（重要業績評価指標）は設定されないようだが、デジタル化により経費が削減できるという効果、すなわち、今回示された予算内の関連する予算額を縮減しているとなれば、経費予算額を一つの指標と考えることもできるのではないかと。そこで

①デジタル化に関する予算＝投資額はいくら計上されているのか？

【答弁】令和4年度当初予算におけるデジタル化に関する予算額は、約8,400万円（うち一財は約7,500万円）だ。

②デジタル化でペーパーレスが推進されることによる消耗品費や通信費の減額、また業務効率がアップすることによる残業代などの人件費の削減はどの程度、予算に反映したのか？

【答弁】デジタル化に伴う効果については、現在、具体的な算出をしておらず、令和4年度当初予算には反映していない。第五次情報化推進計画で定めるAI-OCR（紙の書類をスキャナーなどで取り込みテキストデータ化する「OCR」に、「AI：人工知能」を融合させた技術のこと）やRPA（人間がコンピューター上で行っている定型作業を、
（裏面に続く）

ロボットで自動化すること)などのデジタル技術の導入については、対象業務の内容を精査し、効果が見込まれるものを実施していきたいと考えている。

②すでにタブレット端末は導入している。そのほか、デジタル化に予算を約 8,400 万円投入することになっている。令和 4 年度の予算では効果額は反映していないとのことだが、では、令和 4 年度、どの程度効果があるかデータを取るなど令和 5 年度の予算に反映できるような取組みはするのか。ROI=投資に対するリターンという考え方はないのか。

【答弁】タブレット端末導入の主な目的は、文書のペーパーレス化なので、令和 4 年度において、消耗品(紙など)の購入状況などを適時調査し、効果額の把握に努めてまいりたいと考えている。また、AI-OCR・RPAについては、紙書類のシステム入力等の定型業務の作業時間短縮が期待できることから、時間換算で効果額の把握に努めていきたいと考えている。

…東大和市が導入を計画しているデジタル化は、前代未聞のことではなく、すでに導入している自治体はあります。メーカーの方でも、効率化できた例の様々なデータを持っているはず。8400 万円も投資をして、その効果を 1 年間も反映させない、すなわち 1 年間をテスト期間とするといったスピード感でよいのか。質疑でも触れたように、デジタル化に関する経費の予算をあらかじめ縮減しておくことで、職員全員がその予算内になるようにデジタル化を最大限に活用するようになるのではないかと。予算がデジタル化前と同様なら、今まで通りの方法に流される可能性が高まるのではないかと感じました。

■業務改革の効果は

…東大和市は令和 2 年度、民間のコンサルタントに依頼して、全ての業務を対象に業務分析を実施。その報告書では「必需性」、「有効性」、「代替可能性」という視点から縮小・廃止の検討が望ましい事業が 194 リストアップされました。それを受け、市はそのうちの 90 事業の縮小・廃止が令和 4 年度予算に反映しています。この事業の縮小・廃止については、反対の声もあり、一般質問や陳情審査などでも様々議論されています。

…この 90 事業の縮小・廃止による令和 4 年度予算への影響額は、事業費総額ベースで▲3,981 万 7 千円、一般財源(市独自の財源)ベースで▲2,806 万 9 千円とのことなので、1,600 万円かけて民間事業者分析してもらったことで、事業費総額で約 4,000 万円も、より時代にあった事務事業に財源を充当できるようにもなり、効果も挙げられるということであれば、十分に費用対効果があるといえると思います。

…そこで、この縮小・廃止した 90 事業に関連し、以下の点を確認しました。

①廃止はゼロになるのでわかりやすいが、縮小というのは「事業費を縮減し、事業規模も縮小する」という意味なのか、「事業費は縮減するが、事業規模は同様に実行＝工夫の余地がある」という意味なのか？

【答弁】事務事業の縮小については、「事業費を縮減し、事業規模も縮小する」と「事業費は縮減するが、事業規模は変えずに同様に実行する」ものの両方がある。また、その他の例として、重複や類似する事業を整理統合して、集約を図るものもある。

②これら、縮小・廃止した 90 の事業の財源は、予算編成において、どのように活用されたのか？

【答弁】令和 4 年度予算編成における各課からの予算見積もり段階での歳入歳出の差引額は、約 24 億 7,800 万円の財源不足で、そこから調整を進めて当初予算を編成した。そのような厳しい予算調整の中にあっても、デジタル化対策や、児童発達支援センターと認可保育園、公共施設等の老朽化対策などの新たな取り組みを進めるにあたり、縮小・廃止した事業の財源の活用が図られた。

…縮小・廃止される事業に関係のある市民は、残念に思うだけでなく、不安や不満を持つこともあると思います。しかし、その事業の縮小・廃止により実現した新たなサービスや効果などを示すことで、理解も得られるのではないかと考えます。市は、そのあたりを丁寧に説明する必要があると思います。

■財政状況の厳しさは変わらず

…そのほか、総括質疑により、財政の弾力性を示す経常収支比率や不測の事態などに備える市の普通預金ともいえる財政調整基金などの現状と予測についても確認。経常収支比率についての答弁は以下のとおり。その答弁からは東大和市の財政状況は変わらず厳しいことが浮き彫りとなりました。

◆令和 4 年度からスタートする第 6 次行政改革大綱でも、経常収支比率を 90% 以下とすることとなっているが、令和 4 年度当初予算における経常収支比率は、101.9%。当初予算編成時より決算時の方が減少する見込みだが、目標値である 90% を切ることは非常に厳しい状況。

【経常収支比率】経常的な経費に充てられている割合を示す指数。比率が高いと、義務的経費以外に使える財源に余裕がないことを示し、財政構造の弾力性が低いことになる。

…東大和市は、今後、老朽化が進んでいる公共施設の長寿命化工事など、大きな財源を必要とする事業が目前に控えているにも関わらず、人口減少による税収減なども予測されています。この課題は東大和市だけに限ったことではありませんが、その課題をどれだけシビアに受け止めるかどうかで、各自治体の状況には差が出ることになるのでは。そういった点では、来年度導入するデジタル化の効果について、東大和市ももう少し貪欲になっても良いのではないかと感じました。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。コロナ禍において、駅頭での配布は一時、控えております。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

1970 年 東京都北区生まれ。父の転勤で 1 歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を 2 年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。学校外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経 WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在 3 期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木 3-274-2-102